

## 東日本大震災の被害をうけられた皆様へのお見舞い

会長 森田 弘彦\*

2011年3月11日の午後2時46分に発生した東北地方太平洋沖地震は、東北・関東地方の太平洋側を中心に甚大かつ深刻な被害をもたらしました。加えて、東京電力福島第一原子力発電所の損壊と、それに伴う放射性物質の飛散が、かつてない規模で生活と産業に打撃を与えています。東日本大震災の直接・間接の影響で不幸にして命を落とされた皆様には心よりご冥福をお祈り申し上げ、人的・物的な被害に遭われた皆様方には深くお見舞いを申し上げます。東北雑草研究会としても直接、間接に被害に遭われた会員・関係者多数いらっしゃると思いますので、本年度の会誌を借りて深甚なるお見舞いの意を表すものです。

今回の災害は、人命や財産への直接の打撃にとどまらず、農林水産業をはじめとする各界の産業に長期間にわたる影響を及ぼすことが特徴となっています。雑草科学や雑草防除の分野でも、農耕地の損壊や放射性物質の除去にかかわる雑草の生態変化や、汚泥の蓄積などこれまで経験のない状況に変化した農耕地での雑草防除などの課題にとどまらず、雑草防除に必要な薬剤や資材の生産でも影響を受けています。

東北・関東地方を中心にめざましい速度と規模で復興が進められておりますので、東北雑草研究会としても、必要な会員や組織に支援ができるように柔軟な対応を行いたいと思います。

震災直後の2010年度末から2011年度の初めに予定されていた学会や学協会の大会、講演会やシンポジウムなどは、日本雑草学会の創立50周年記念大会を含めて中止される事態になりました。大震災の被害は学会などの活動に対しても大きな制限要因となり、これまで夏期に開催してきた東北雑草研究会の例会の開催も危ぶまれる事態となりました。しかしながら、開催をお願いした青森県の関係各位、日本植物調節剤研究協会東北支部会のご尽力と、何よりも福島県、宮城県および岩手県をはじめとした被災県の関係者の方々のご賛同をいただき、事務局で調整の結果、2011年6月28日に青森市で開催することができました。例会では、東北大学と宮城県古川農試の会員から震災での農業被害に関するご報告をいただき、参加された会員にこの大きな災害に立ち向かう方向性を示唆していただきました。大変に困難な状況の中で東北雑草研究会を開催していただいた関係各位と会員の皆様に改めて厚く御礼を申し上げます。

ちょうどこの時期、6月の下旬ころから、農学関連の諸学会も活動を再開し始めていますので、東北雑草研究会は現地でこの先陣を切ったと言えると思います。

復興にむけて大きく踏み出したものの、課題は膨大で今後長い年月を要するものとなっています。この課題の中で、東北地方の雑草科学とその関連分野で東北雑草研究会がその役割を果たせるよう取り組む所存ですので、会員各位のご支援を切にお願い申し上げます。